

全日本空輸株式会社

2010年3月期 第2四半期決算説明会【第1部】



2009年10月30日

ANAグループの目指すもの

グループ経営理念

— 私たちのコミットメント —

ANAグループは、「安心」と「信頼」を基礎に

- 価値ある時間と空間を創造します
- いつも身近な存在であり続けます
- 世界の人々に「夢」と「感動」を届けます

グループ安全理念

安全は経営の基盤であり社会への責務である。

私たちはお互いの理解と信頼の
確かなしくみで安全を高めていきます

私たちは一人ひとりの責任ある
誠実な行動により安全を追求します

グループ経営ビジョン

ANAグループは、国内および日本とアジア
そして世界の旅客・貨物輸送を担う
航空事業を中核としてアジアを
代表する企業グループを目指す。

▶▶ アジアを代表するとは、

- クオリティで一番
- 顧客満足で一番
- 価値創造で一番

となることである。

目次

1. 2010年3月期 第2四半期累計 経営成績報告	P4
2. 2010年3月期 通期業績予想	P5-6
3. 今後に向けて	P7-13
(1) 国際旅客事業	P7-8
(2) 貨物事業	P9-10
(3) コスト構造改革	P11
(4) 改革の5つの柱	P12
(5) 次期経営戦略	P13

当資料は、弊社の現在の計画、見積り、戦略、確信に基づく見通しについての記述がありますが、歴史的な事実でないものは、全て将来の業績に関わる見通しです。これらは現在入手可能な情報から得られた弊社の判断及び仮説に基づいています。弊社の主要事業である航空運送事業には、空港使用料、燃料費等、弊社の経営努力では管理不可能な公的負担コストが伴います。また、弊社が事業活動を行っている市場は状況変化が激しく、技術、需要、価格、経済環境の動向、外国為替レートの変動、その他多くの要因により急激な変化が発生する可能性があります。これらのリスクと不確実性のために、将来における弊社の業績は当資料に記述された内容と大きく異なる可能性があります。従って、弊社が設定した目標は、全て実現することを保証しているものではありません。

1. 2010年3月期 第2四半期累計 経営成績報告

収入の大幅な減少により、第2四半期累計業績は赤字に

2010年3月期 第2四半期累計業績と財務指標

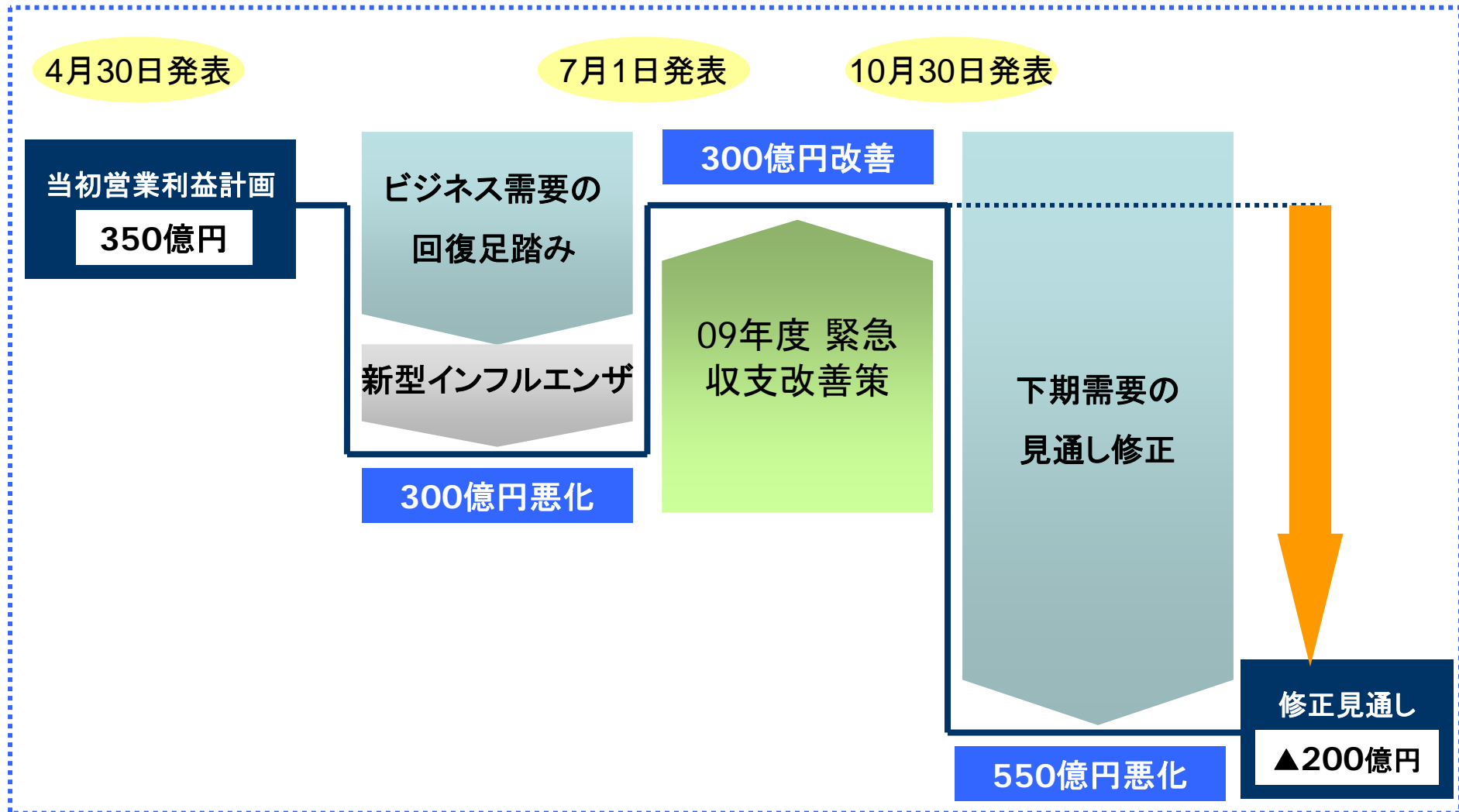
		第2四半期累計	前年差
売上高		6,118	▲1,415
	航空運送事業	5,400	▲1,268
営業損益		▲282	▲781
	航空運送事業	▲287	▲769
経常損益		▲415	▲810
当期純損益		▲253	▲474
EBITDA		274	▲776
自己資本比率 [%]		24.1%	3月末との差 +5.8%
DEレシオ [倍]		2.1	▲0.7

- 世界同時不況の影響により、売上は大幅減少
- 過去最大規模のコスト削減を実行
- 公募増資実施により、資本増強

(億円)

2. 2010年3月期 通期業績予想

下期需要の見通しに基づき、利益計画を下方修正



2. 2010年3月期 通期業績予想

当期の業績予想を、280億円の当期純損失に修正

2010年3月期 通期業績予想

	当初予想	修正予想	増減額
売上高	13,500	12,600	▲900
航空運送事業	12,000	11,210	▲790
営業損益	350	▲200	▲550
航空運送事業	325	▲220	▲545
経常損益	50	▲450	▲500
当期純損益	30	▲280	▲310
配当 [円]	未定	無配	

(億 円)

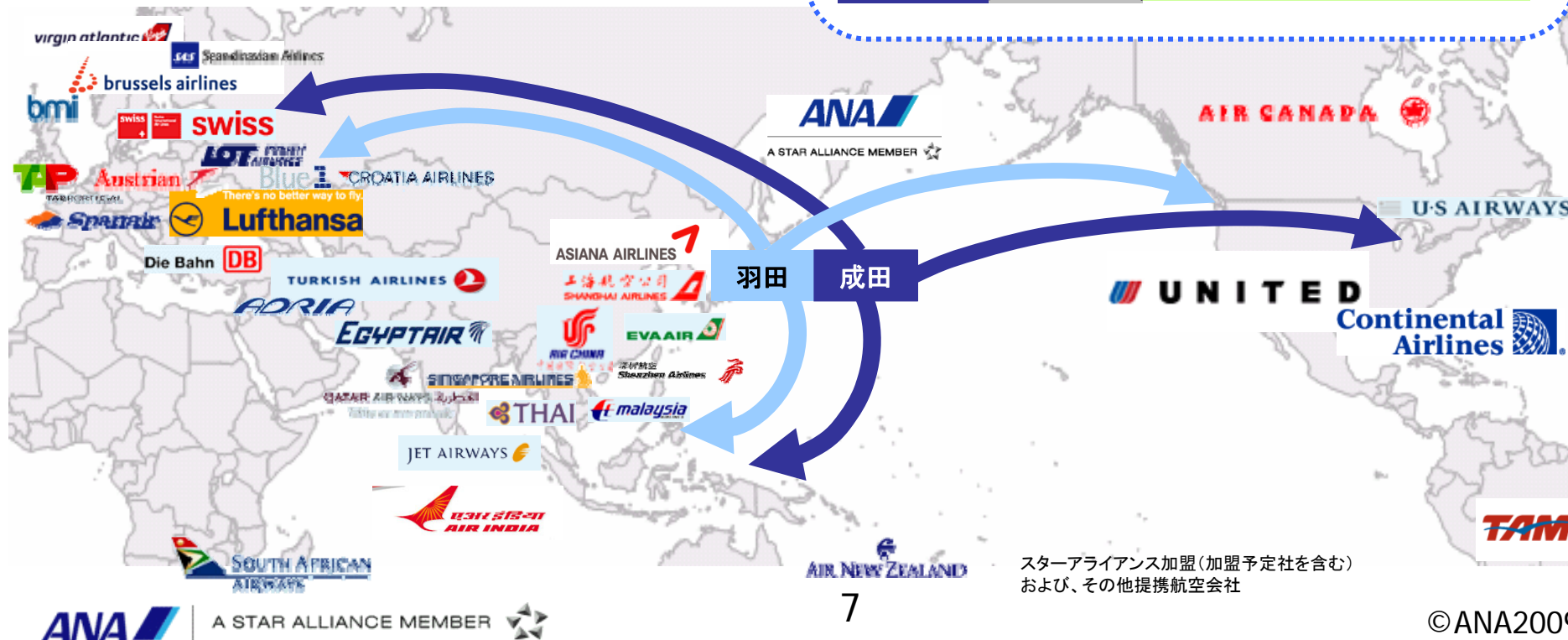
3. 今後に向けて (1) 国際旅客事業

羽田・成田はデュアル・ハブへ、国際線での競争力を大きく改善

- 2010年の首都圏空港拡大により近距離・長距離路線ともに拡大
- 羽田・成田空港のデュアル・ハブ化により需要のキャッチメントエリアを拡大
- パートナーキャリアとの提携を更に強化

羽田・成田の運用時間帯と主な就航予定エリア

時間	23 早朝深夜 6	屋間帯 23
羽田空港	中国・アジア・欧米路線他	中国・アジア路線
		+
成田空港	クローズ	中国・アジア・欧米路線他



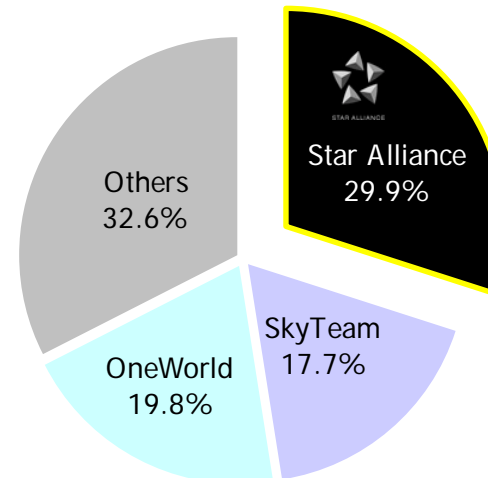
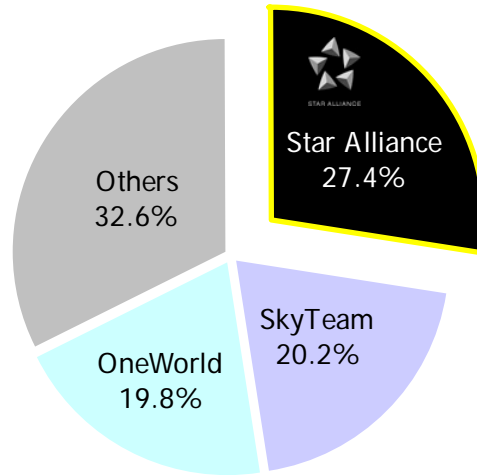
3. 今後に向けて (1)国際旅客事業

コンチネンタル航空のスターアライアンス加盟により、競争力は更に向上

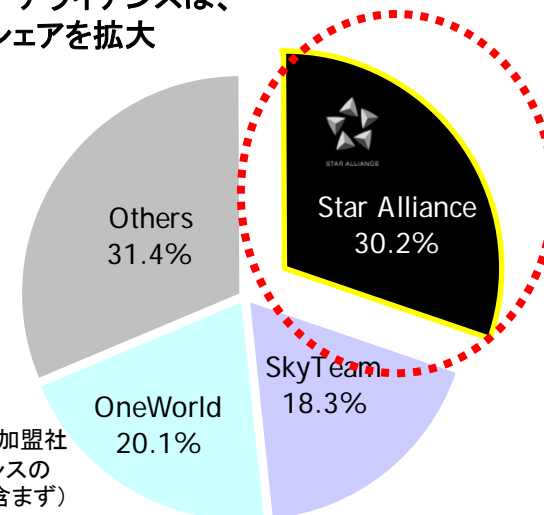
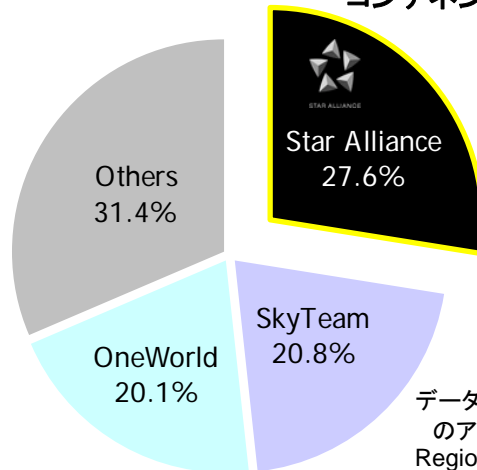
コンチネンタル航空 スターアライアンス加盟前

コンチネンタル航空 スターアライアンス加盟後

国際線座席キロシェア



国際線旅客キロシェア



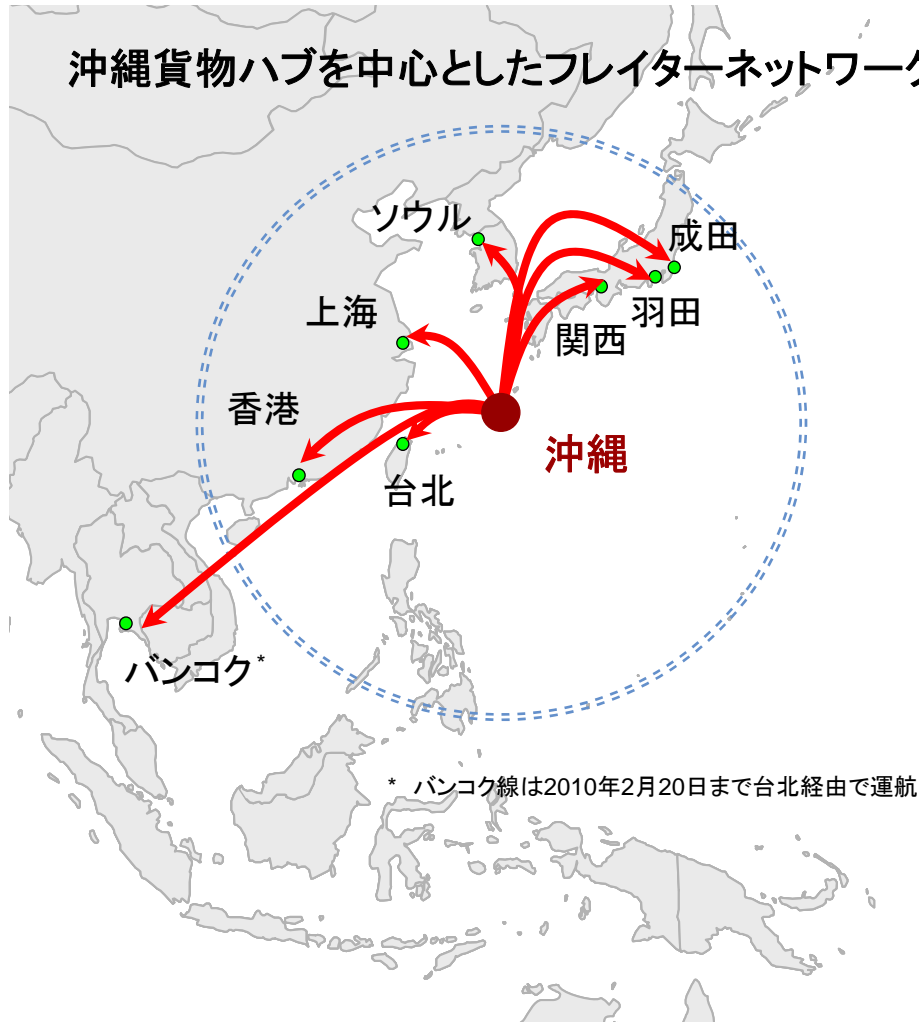
最大の座席キロ・旅客キロシェアを持つスターアライアンスは、
コンチネンタル航空の加盟により更にシェアを拡大

データ: IATA WATS 53rd Edition (IATA加盟社のアライアンス別国際線実績。各アライアンスのRegional, Affiliate, Associate Membersは含まず)

3. 今後に向けて (2) 貨物事業

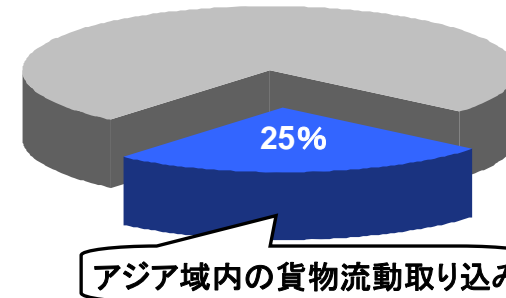
沖縄貨物ハブ 10月26日より始動

沖縄貨物ハブを中心としたフレイターネットワーク



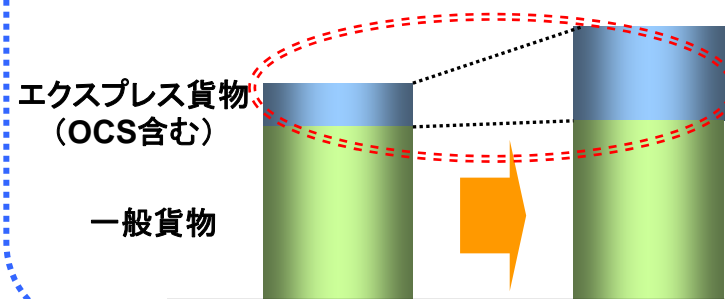
沖縄ハブ路線 方面別重量構成比

沖縄の地理的利点を活かし、成長性の高いアジア域内の貨物需要取り込みを図る



沖縄ハブ路線 エクスプレス比率

OCSを活用したエクスプレス貨物の比率拡大により、貨物事業の収益性改善を図る



3. 今後に向けて (2) 貨物事業



オペレーション初日の沖縄貨物上屋前

3. 今後に向けて (3)コスト構造改革

更なる成長に向け、抜本的なコスト構造改革を断行

- 成長のチャンス
- 首都圏空港の能力拡大
 - 航空自由化の加速

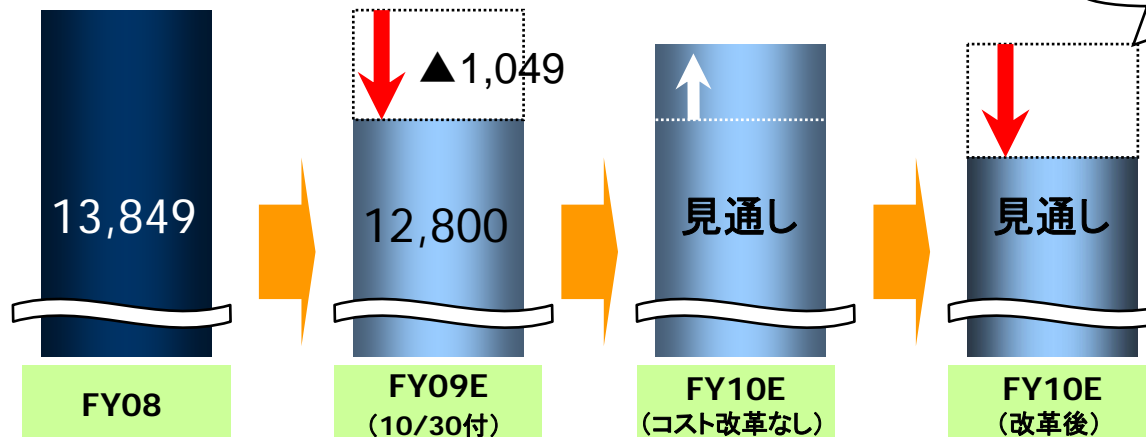
2010年
に向けて

- 経済環境
- 景気回復の遅れ
 - デフレ基調の恒常化懸念

抜本的な体質改善と構造改革

デフレ環境下でも安定利益を生み出す収益体質への転換に向け、
抜本的なコスト構造改革に着手

営業費用 実績と見通し [FY08-FY10]



(億円)

3. 今後に向けて (4)改革の5つの柱

収支構造改革を断行することにより、安定利益を生み出す企業体質へ

改革の5つの柱

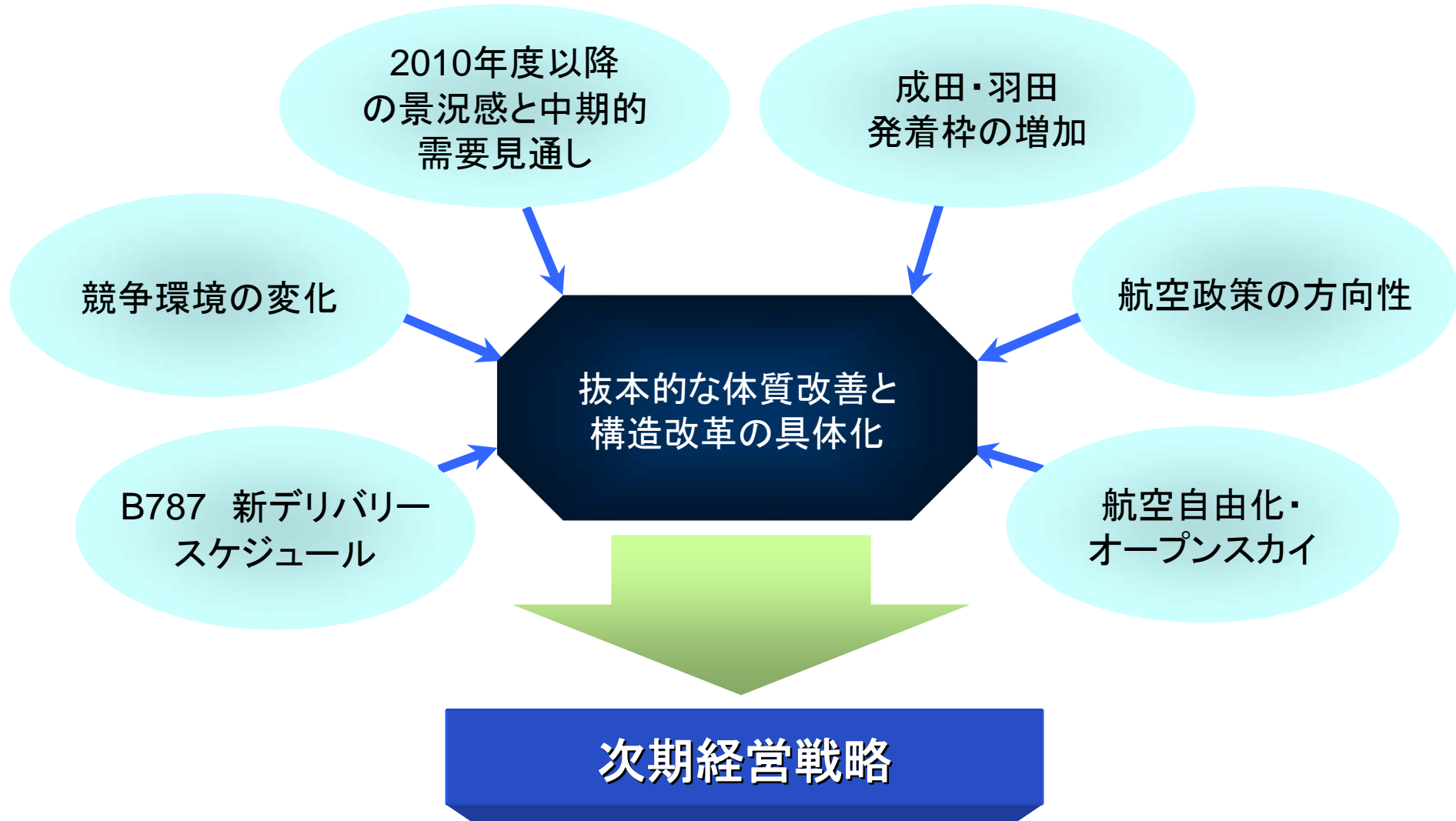
事業戦略		営業戦略	
国際線事業の拡大		グローバル・マーケティングの深化	
国内線事業の一層の効率化		販売体制の効率化	
貨物エクスプレス事業の定着		ANA My Choice *	
新内際航空事業モデルの検討			
グループ経営体制再構築	生産性向上	コスト構造改革	
グループエアラインの再編	業務構造改革により、約20%の間接業務人員削減を図る	販売関連費用の圧縮	
グループ本社・本部化	従業員一人あたりの生産性向上、約10%を目指す	グループ人件費の見直し	
		間接固定費の削減	

2010年度において1,000億円規模の収支改善を目指す

* Pay for valueの新サービス名称

3. 今後に向けて (5)次期経営戦略

次期経営戦略は第4四半期での発表を目指す



ご清聴ありがとうございました。

Thank you.

当資料はホームページでもご覧いただけます。

This material is available on our website.

<http://www.ana.co.jp>

[日本語] IR情報 → 決算・IR情報



全日本空輸株式会社 IR推進室

電話番号 03(6735)1030(代) FAX 03(6735)1185